

～開校 150 周年記念事業について～



今年度も児童会の実行委員会が活動しています。夏休みに向けてポスターの募集などを準備中です。

開校 150 周年という節目を迎え、子どもたちに赤江小に対する誇りや愛着、赤江小を支えてくださってきた多くの皆様への感謝の気持ちを育んでいきたいと考え、保護者の皆様や児童と記念事業に取り組んでいます。

児童の実行委員会では、今年も「150 周年記念ポスター」や「赤江小学校にちなんだクイズ」の募集などを計画中です。子どもたちに夏休みに取り組んでほしいです。また、PTAの実行委員会では、「10 年後の自分に手紙を書いてみては」「全校リレーマラソン大会が楽しそう」など、様々な意見が出ています。中には「子どもたちの思い出として残るように、花火が打ち上げられないか」と夢のある話も出ています。そのほかにも、タブレットパソコンを使った授業を保護者の皆様にも体験していただく「保護者向けプログラミング学習体験」など、楽しい企画も考えています。夏休み中にも実行委員会は開催されます。保護者の皆様には、随時スクールメールなどでお知らせしようと思います。



開校 150 年記念コラム（第 11 回）

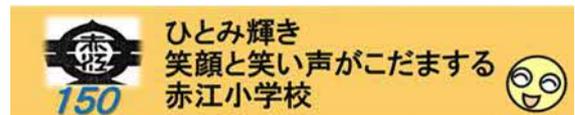
赤江地区の教育活動を支えている赤江教育後援会。たくさん子どもたちが恩恵にあずかり成長してきました。今回は、「赤江教育百年誌」より、赤江教育後援会の誕生についてのお話を紹介します。

「教育後援会」

戦前から教育会、教育振興会として、地区社会教育諸団体の教化育成の活動を進めていたが、戦後は後援会と公民館でその任に当たっている。

後援会は、小学校教育、幼児教育、社会教育諸団体の資金的援助を担当すると共に赤江地区町内会長協議会の全面的協力を得て、赤江地区の総意を結集する機関ともなっている。

昭和 27 年、おそらく赤江村最後の事業として、赤江保育所を設立した。翌年、小学校前庭ならびに屋体用地を確保した。講堂は校庭西部にあったが、東赤江小の講堂を移築したもので老朽化してい



たので、市に働きかけ、33年屋体が完成した。当初、ステージが設計になかったので地区の寄贈ということになり、併せて体育施設などの充実を図り、立派な屋体が完成した。寄付総額71万円であった。34年には、多胡氏寄贈のピアノも老朽化したので、地区民の浄財により購入された。この募金組織を発展させて赤江小学校に教育後援会が発足した。後に赤江地区の教育を振興させることを目的として赤江教育後援会となった。

以後、着々として市設備費が整えられたが、主なものをあげてみると、校庭フェンス（S36）、給食設備（S39）、鼓笛隊楽器（S39）、親子テレビ（S42）、温室（S43）、交通公園（S46）などである。中庭は、30年当時は、全くの砂原であった。プールは大部分が市費によって設置されたが、建設に至るまでの関係者の努力はなみなみならぬものがあった。校地内の一木一草に至るまで、子どもは子どもで、また親は親で、それぞれに思い出を宿す校区の象徴であるように思える。

「赤江教育百年誌」は、赤江地区の近世の教育の歴史をまとめた貴重な資料で、この記念コラムコーナーでも、たびたび「赤江教育百年誌」をもとに紹介してきております。このたび、学校にある「赤江教育百年誌（未使用のもの）」を、保護者や地域にお住いの希望の方にお分けすることにしました。併せて、学校にある、「赤江小学校」の文字入り湯飲みも希望の方に配布する予定です。9月にあらためてご案内する予定です。その際お申し込みください。